

## 新 雲仙プロジェクト通信 11号

平成 26年4月26-27日、5月9日

今回のプロジェクト通信は、平成 26 年4月26日から27日の二日間にわたり、奥雲仙田代原にて行いました環境省自然保護官の岸田さんと長崎大学 4 年生鶴田さんを交えた意見交換会の現地報告と、5月9日に長崎県庁でおこなわれた県教育庁との面談のご報告をまとめて行います。

## ◆平成 26 年4月26日-27 日の夜明かし談義へ行ってきました

もっともすがすがしい季節となった4月26日、山下さんと私（矢ヶ部）の2名で、奥雲仙田代原へ行ってきました。今回は、今後の活動の在り方について、突っ込んだ意見交換を夜明かしでしたいという中田代表の強い？要望で実現したもので、泊りがけでの奥雲仙行きとなりました。

田代原へ到着すると、長崎大学の4年生の鶴田さんが、到着して、夕食？の準備のお手伝いをされていました。鶴田さんは、深見研究室の研究生で、自身の卒論テーマに「奥雲仙の自然保全」を選ばれ、乗り込んできた方です。昨年の野外研修フィールドにも参加され、また、なんと、登山部に所属され、相当の山道もほいほいと登るほどの元気いっぱいの女子大生です。

環境省の岸田さんが遅れてこられるということで、奥雲仙メンバーと鶴田さん、そして、共助研メンバーの山下さんと私で、「遊々の森」の現状視察に行くこととなりました。

ここ「遊々の森」は、平成 22 年度に、中田代表のご努力下、「牧場の森」に指定されたところで、また、今年の4月以降は、これまで、20頭近くいた牛の放牧がなくなり、安心して環境教育フィールドとして入れる場所になったということでした（5月9日に県教育長に面談に行くことになった場所）。

確かに、今までの牧草地の環境は残っており、広っぱ的に利用できそうですし、牧草地だった周囲は、冒険の森にふさわしい木々が生えており、魅力的な場所です。しかし、この魅力的な環境も、田代原と同じように、人間の手を入れなければ、あっという間に樹林化してしまい、人が入り込めなくなる森となる運命です。



そのため、短い期間の間で、この「遊々の森」の重要性を、より多くの人に理解してもらうように広報していかなければいけません。それも急いで！！

2時間程度、「遊々の森」の視察を行い、少し汗をかいたこともあって、雲仙温泉に汗を流しに行きました。前回は、入った温泉ですが、47度という高温の温泉なので、じっくりつかることができず、烏の行水的にすませ、戻ってきました。



さて、いかがでしょうか「遊々の森」の雰囲気は？（前のページ写真と下の写真）。魅力的でしょう！



さて、いつもながらの心のこもった地元の食材を使った夕食の時間です。中田代表から、「きょうは、しゃぶしゃぶにしました」ということで、「ん？ 珍しく牛肉のしゃぶしゃぶか！ 豊後牛のしゃぶしゃぶ？、あるいは田代原の牛？」と思ったのもつかの間、「レタスのしゃぶしゃぶです」。牛肉でなく、野菜のレタスのしゃぶしゃぶ???? がっかりするまもなく、そのレタスのしゃぶしゃぶをいただきましたが、さっと湯通しをしたサクサク感があるレタスのしゃぶしゃぶは絶品で、実にうまい!!! ありがとうございます!!!



と、そうとう盛り上がったところで、環境省の岸田さんがお見えになり、全員そろったということで、私の方から、昨年度の雲仙市へ提出した研究報告書の概要報告をさせてもらいました。また、岸田さんは、子供向けの環境教育教材を持参され、なんとか、子供たちにここ雲仙の魅力を伝えたいということを熱心に話をされました。話は、なんと夜中の1時過ぎまで続いたそうです。・・・というのも、山下さんは、お疲れで10時ごろダウン。私も、お酒もしっかり入っていることもあって12時にはダウン。その後は、岸田さんと中田代表、そして鶴田さんらが話で盛り上がったとのことでした。・・・(面目ない次第です m(\_ \_)m)



翌朝、おいしい朝食をいただき、岸田さんと「遊々の森」へ。前日同様、その魅力を再認識したひと時でした。昼前に、田代原を離れ、一路、帰宅の途へ就きました。ちなみに、その日は夕方から、長崎市で「帆船祭り」があるということでした。

5月下旬の長崎大学環境科学科との屋外フィールド研修は、7月に延期になりましたが、今年は、ここ田代原では、大きな一歩を踏み出すのではないかと期待しています。



### ◆平成26年2月11日の長崎県教育庁との面談に同席してきました

中田代表より電話があり、5月9日、急きょ、長崎県の教育長が会っていただけることとなったとのことで、同席依頼があり、いってまいりました。

NPO 奥雲仙の自然を守る会からは、中田代表、木田さん、柴田さん、県からは、池松教育長と池田教育次長のお二人が参加し、奥雲仙の抱える課題と要望について話をさせていただきました。

田代原のミヤマキリシマを守る活動の説明、今回、野外環境教育のフィールドとして一押し「遊々の森」の状況と学校関係者の方々への周知等のお願いをさせていただきました。(要望書は、別紙参照)

熱心に話を聞いていただき、また、池田次長はもと教員とのことで現場の状況等のお話をいただきました。特に、情報発信を行うことが大切だということで、「体験ネット」への登録や、地元の先生方が夏休みに行っている社会研修会等へのPRが効果的ではないかということです。そのためには、奥雲仙の環境のなかで提供できるカリキュラムがどのようなものがあるか、イメージできるような資料作りも必要だろうということでした。また、同じような先進事例として、平戸の中津良小学校の話が紹介されました。この小学校では、地元の小学生らが、水質保全をテーマに環境の現場に注目し、EMドロ団子作りを通して、児童自ら発信していった成功例のようです。

約束の時間を大幅に超過してしまいましたが、最後まで、熱心に話を聞いていただき、また、田代原が抱える課題の重要性も理解していただき。いろいろと今後の活動に役に立つ話をいただきました。

さて、5月下旬から、奥雲仙のミヤマキリシマの見ごろを迎えます。また、そのあとは、ヤマボウシの見ごろを迎えます。皆さん、ぜひ、奥雲仙田代原へ足を運んでいただければと思います。

### 本日の一枚+1枚（「遊々の森」での集合写真）



左から、鶴田さん、山下さん、中田代表、木田さん、岸田さん  
【第11号 新雲仙プロジェクト通信作成担当：矢ヶ部】

平成26年5月9日

長崎県教育長 殿

「遊々の森」における教育学習の場としての利活用の要望書  
(奥雲仙田代原地区の自然保護活動と利活用へのご協力・ご支援依頼)

## 記

観光地・避暑地として著名な雲仙地域には、その特有の高原環境に生息するミヤマキリシマが生息することでも名を知られています。特に、仁田峠のミヤマキリシマは、毎年5月になると多くの観光客で賑わいます。しかし、仁田峠だけでなく、奥雲仙田代原にもミヤマキリシマが固有の環境の中で生息しています。ここ田代原地区は、雲仙国立自然公園第2種特別区域に指定され、「ミヤマキリシマが点在するシバ草原の維持に努める」「環境学習にふさわしい場となるよう保全に務める」と明記されています。

また、田代原地区は、世界ジオパークに日本初で認定された島原ジオパークにも属し、千々石断層の隆起により生じた盆地帯であり、地質的にも非常に稀有な場所でもあります。

かつては、地域の小中学校の遠足の場として親しまれていた田代原のミヤマキリシマの生息地は、牧野という生業のなかで生まれた草地環境を基盤として、その生息を可能としてきました。

しかし、牧野を取り巻く環境が変化し、放牧牛の数が激減したことが要因となり、これまで草地環境であった場所が、藪に、さらには、アカマツが侵入することで、草地環境から樹林化が進んできており、ミヤマキリシマは、急速に生息場所を追われつつあり、貴重な生息環境が失われつつあります。

このような状況に危機感を抱き、平成17年に「NPO 奥雲仙の自然を守る会」を立ち上げ、ミヤマキリシマの保全運動を、自然公園区域の中の活動という特殊事情のなかで活動を続けてきました。

また、平成22年には、田代原地区に隣接した約10haの牧野を、長崎県初の森林環境教育の場として「遊々の森」として指定していただき、九州森林管理局长崎森林営林署、雲仙市、島原雲仙農業協同組合と、奥雲仙の自然を守る会の4者間で、「奥雲仙牧場の森」の協定を締結しました。今後、多様性とんだこの豊かな森林環境を、子供たちの森林教育の場として活用することとしています。

しかし、ここ「遊々の森」に放牧されていた約20頭の牛も、現在は、別の場所に移動しており、隣接する田代原と同様に、今後、アカマツ林への遷移が進み、現在の草地環境は、消失してしまうことが危惧されます。そのため、現在のミヤマキリシマ保全活動と一体的に保全整備活動を行うことで、同様の草地環境を今後も維持し、環境教育活動拠点として活用していくことが必要になってきています。

この自然公園区域における貴重な自然環境を守るため、次世代を担う子供たちへの環境教育フィールドとして教育現場で周知していただき、今後、さまざまな自然教育の現場で「遊々の森」を活用していただきたく、ご協力、ご支援をお願いする次第です。このような環境教育活動を背景に、私どもは、ふるさとの自然と暮らしについて、“現状を見据え”、“改善方法を考え”、“実現に向かって行動する”という学びの流れを生み出す教育・学習活動につながっていく活動を継続していきたいと考えます。

以上

(特定非営利活動法人) 奥雲仙の自然を守る会代表 中田妙子